

放課後子どもプラン 「ストップ！温暖化」 活動プログラム集



もくじ

導入プログラム

★つくろう！編

- ・ 「小枝はし」づくり . . . p. 3
- ・ 「はしぶくろ」づくり . . . p. 6
- ・ 「ふろしき」づくり . . . p.11

- ・ 「地球儀」づくり . . . p.14
(ストップおんだん館特別出張プログラム)

発展プログラム

★さがそう！編

- ・ 「学校のエコモノ」を探せ！
. . . p.17

本掲載プログラムは全国温暖化防止活動推進センター(JCCCA)「ストップおんだん館」オリジナルプログラムを放課後子どもプラン活動展開用にアレンジしたものです。



小枝はしづくり

ねらい

自然資源の活用に関心を持ち、箸を実際に使って環境に配慮した生活を実践する。自分の作ったものに愛着を持って、ものを大切に使う気持ちを育み、身の回りの物への関心を高める。

プログラムの目標

木から箸ができることを知り、実際に箸を完成させる。
作る作業の中で、ヤスリや場合によりのこぎりやナイフに触れ、その使い方を体験する。
マイ箸を持つこと、使うことで環境に配慮した生活に結びつくことを理解する。



小枝はしづくり

プログラムの流れ

対象年齢: 小学1年生～ / 所要時間: 約60分

導 入

約10分

- ◆マイはしの実物紹介(今日は何をつくるのかの確認)
箸が何からできているか。木やプラスチック、他・・・
今からつくる箸の材料が「木」であることと身の回りで「木」を使ったものにと
んなものがあるかを参加者に投げかけてみる。
例) 机・イス・まな板・えんぴつ・ノート
木の特徴を思い起こしてみる投げかけ。
例) 育つのに時間がかかる、何度も使える、木目の美しさやぬくもりなど。
- ◆小枝はしをつくるワクワク感の演出
簡単にはできないが、お金では買えない自分だけのオリジナルはしが完成す
ることなどを伝える。

展 開

約40分

- ◆作業手順の簡単な説明
(進行役が作り方を一通り簡単にデモンストレーションして見せる)
- ◆各自実際の作業
 - ①自分の好み長さ、太さの材料を2本選ぶ。
 - ②まずは金ヤスリである程度の太さに削っていく。
 - ③紙ヤスリ(粗め／細かめの2種類)で仕上げていく。
 - ④のこぎりを使って好みの長さに切りそろえる。

ま と め

約10分

- ◆参加者とのふりかえりの時間
参加者の何人かから実物を見せてもらったり、感想を聞いてみる。
- ◆進行役からのまとめの話
例)
 - ①ただの枝が手を加えて箸になったこと。
 - ②洗えば何度も使えること。上手に木を使うことで森を守ることにつながること。
 - ③木や森がなくなったらどうなるのかに思いをはせる投げかけ。
 - ④せっかくだつくれたものなので大切に使うことでまた価値がでること。など

小枝はしづくり

実施ポイント

- 6名ほどのグループをつくり、可能であれば各グループに1名のスタッフがつくると進行がスムーズ。
- 高学年の子どもは各グループに分散させてグルーピングし、低学年の児童につくり方を教えてあげる先生役を担ってもらおう。
- 手入れは石鹸・洗剤はあまり使わずに水洗いでよく乾かすと長持ちする。
- 食用油を塗ると長持ちする。
- 箸の長さは人差し指と親指を直角に開いた長さの1.5倍がよい。

準備するもの

- ◆30名分
 - ・小枝・・・60本
(あらかじめ先端をナイフで削っておく。目安はヤスリ掛けさえすれば形が整うレベル)
 - ・金ヤスリ・・・30本
 - ・紙ヤスリ粗め150番
 - ・・・約10cm角 30枚
 - 細かめ400番
 - ・・・約10cm角 30枚
 - ・のこぎり・・・スタッフ人数分(スタッフ管理)
 - ・予備のナイフ・・・適宜
 - ・新聞紙(作業台養生用)・・・適宜
 - ・ゴミ袋・・・適宜
 - ・雑巾・・・適宜(木粉が出るため)

※紙ヤスリは木の角材などにあらかじめ巻き付けておくとヤスリかけがしやすい。

その他、留意点

- 可能であれば、小枝はしづくりに関連して「はしぶくろづくり」も一緒に体験してセットで使えるようにプログラム設定する。
- 低学年には作業が難しいものもあるため、高学年に+αのフォロー役としての役割を任せる。
- 工作体験で終わりではなく箸を実生活の中で使用することを促す。
- 材料は校庭で剪定したものやサクラ・リンゴ・コナラなどの樹種でOK。

※事前準備作業

- ①材料の小枝の先端をあらかじめ削っておく。目安はヤスリ掛けさえできれば整形ができるレベル。
- ②可能であれば紙ヤスリは木片などに巻き付けておき、ヤスリ掛けがしやすいようにしておく。

参考文献・参考HPなど

本手引書内容では特になし。ただし導入時の投げかけ内容やまとめで説明する内容に応じて下調べを行う。



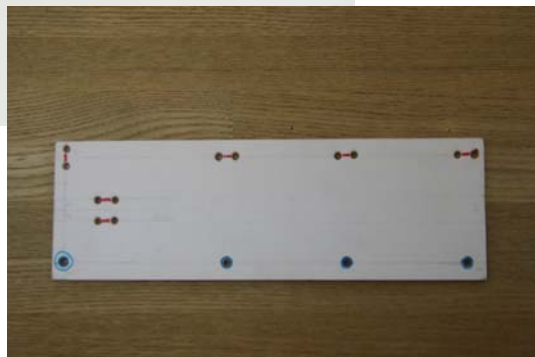
はしぶくろづくり

ねらい

オリジナルの箸袋を使って、環境に配慮した生活を実践してみる。箸や箸袋に愛着を持って、ものを大切に使う気持ちを育み、身の回りの物への関心を高める。

プログラムの目標

箸を再利用する際に使う箸袋を完成させる。
箸袋を実際に使うことで箸を持つことが楽しい感覚を持ってもらう。
マイ箸を持つこと、使うことで環境に配慮した生活に結びつくことを理解する。
普段は使わない作業道具を使ってみる。
「小枝はし」と体験を連動させることで関心を持つ機会を増やす。



はしぶくろづくり

プログラムの流れ

対象年齢: 小学1年生～ / 所要時間: 約60分

約10分

導 入

◆はしぶくろの実物紹介(今日は何をつくるのかの確認)

◆洗って何度も使える箸と割り箸の比較

例)クイズ「日本の割り箸」

割り箸を使っているシーンを思い起こす。「もったいない」感覚を覚える。再利用可能な箸にすることがなぜ良いのか考える。

◆はしぶくろをつくるワクワク感の演出

簡単にはできないが、お金では買えない自分だけのオリジナルはしぶくろが完成することなどを伝える。

クイズ例)

①みんなが割り箸を使うところはどこ? 一家・飲食店等

②1人が1年間で使う割り箸の量は? -200膳(年間260億膳・98%を輸入)

約40分

展 開

◆作業手順の簡単な説明

(進行役が作り方を一通り簡単にデモンストレーションして見せる)

◆各自実際の作業

①自分の好きな布選び。(2枚、好みで裏表別でも可)

②ボンドで布を貼りあわせる。

③型紙を使って、線を書き入れる。

④③でつけた外枠の線で生地を切る。

⑤③でつけた印に穴を開ける。③でつけた線に切込みを入れる。

⑥開けた穴に金具を取り付ける。

約10分

ま と め

◆参加者とのふりかえりの時間

参加者の何人かから実物を見せてもらったり、感想を聞いてみる。

◆進行役からのまとめの話

例)

①ステキな箸袋に自分のお箸を入れて使ってみよう!

②エコグッズを持つことがカッコいい、それを持って生活しよう!

③箸は洗えば何度も使える。上手に木を使うことで森を守ることにつながる。

③木や森がなくなったらどうなるのかに思いをはせる投げかけ。など

はしぶくろづくり

実施ポイント

- 6名ほどのグループをつくり、可能であれば各グループに1名のスタッフがつくと進行がスムーズ。
- 高学年の子どもは各グループに分散させてグルーピングし、低学年の児童につくり方を教えてあげる先生役を担ってもらおう。
- 台紙の線や印を間違えないように進行状況を見ながらゆっくりと進める。
- 金具(カシメ)を取り付けたら、家に帰ってから袋にするのがよい。(ボンドが完全に乾いていない間に袋にするとしわになることもあります。)
- 最初の布の貼りあわせ、作業の難しいカッターや金具(カシメ)をかなづちで打つ作業はスタッフが代行して行う。
- 道具類の確保数に伴って進行状況が変わってくるため、うまく交代しながら作業させるようにする。

準備するもの

- ◆30名分
- ・布・・・60枚(8cm×21cm大 1人前1枚×2を30×2)
- ・布用ボンド・・・適量(各テーブルor5~6名で1本)協力・速乾タイプ ※@¥500前後
- ・ヘラ・・・適量(5~6名に1つ)ボンドを伸ばす用
- ・チャコペン・・・30本(水性のものもしくは時間が経つと消えるものなど)
- ・はさみ・・・30本
- ・型紙・・・適量(7cm×20cm 2~3名に1つ)※別紙
- ・まな板・・・適量(2~3名で1枚)かなづち用
- ・カシメセット(金台・カシメ打ち)・・・適量(5~6名に1つ)
- ・カシメ・・・120個(1人前4個 30×4)
- ・ポンチ・・・適量(2~3名で1本)
- ・かなづち・・・適量(2~3名で1個)
- ・新聞紙(作業台養生用)・・・適宜
- ・ごみ袋・・・適宜
- ・雑巾・・・適宜(手やボンド等を拭くため)

その他、留意点

- 小枝はしづくりに連動して「はしぶくろづくり」も一緒に体験してセットで使えるようにプログラム設定する。
- 低学年には作業が難しいものもあるため、高学年に+αのフォロー役としての役割を任せる。
- 工作体験で終わりではなく箸や箸袋を実生活の中で使用することを促す。
- 布用ボンドが万が一、洋服に付いた場合は乾いてからガムテープなどで剥がすようにとる。

※事前準備作業

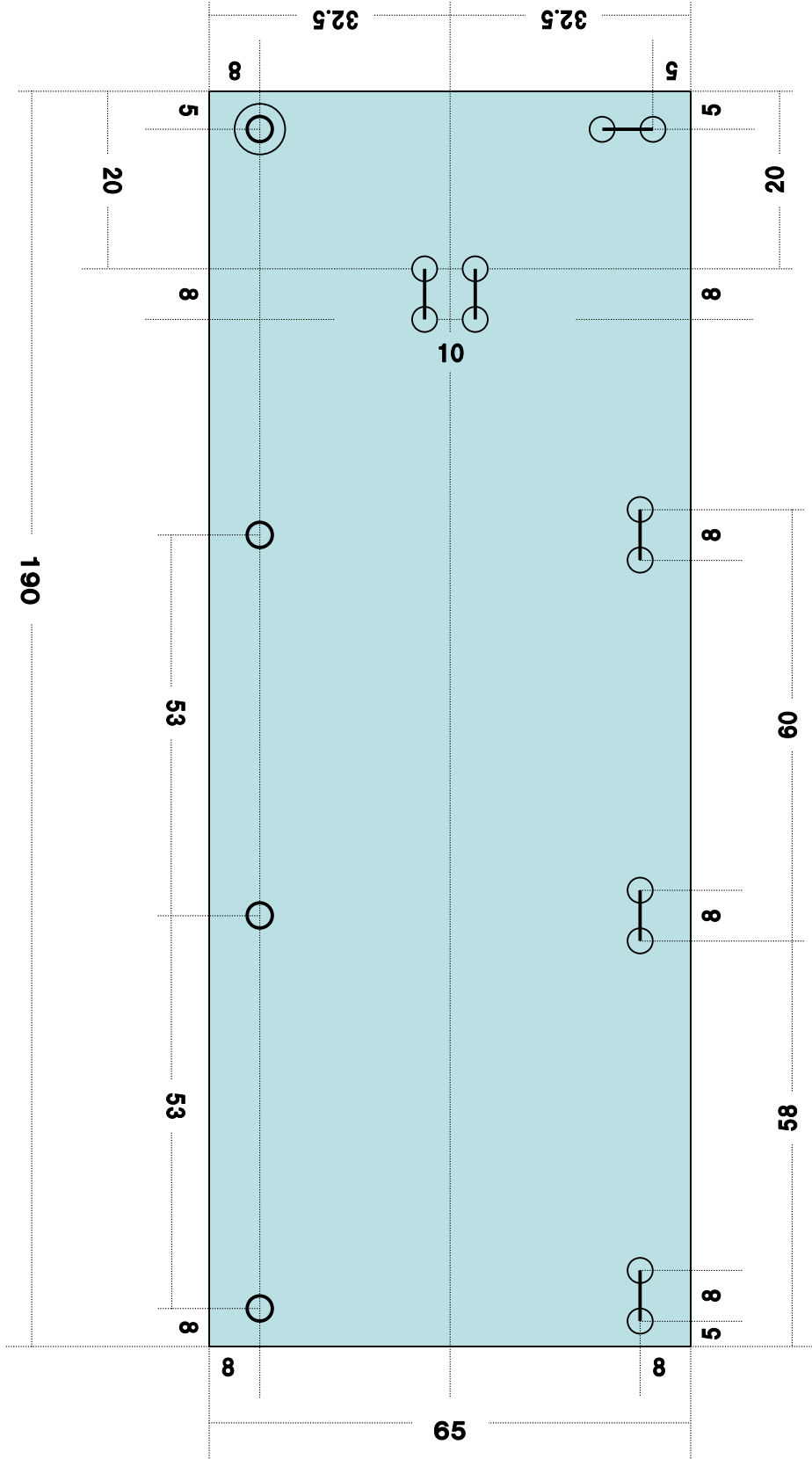
- ①あらかじめ見本や制作課程のわかる見本を準備。
- ②型紙づくり。

参考文献・参考HPなど

- ・「割り箸からみた環境問題 2006」(環境三四郎2006年度割り箸プロジェクト,2007年)
- ※導入時の投げかけ内容やまとめで説明する内容に応じて下調べを行う。

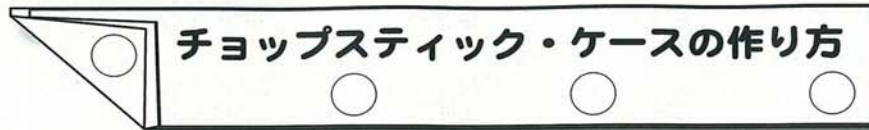
はしぶくろづくり

型紙図面

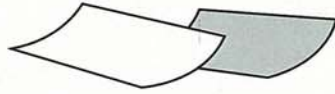


はしぶくろづくり

型紙の使用例

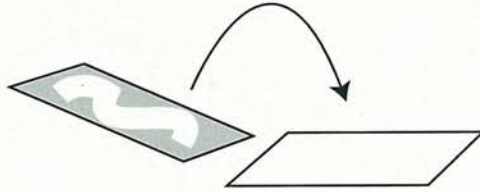


1. 布を選ぶ



すきな布を2枚えらぶ。
(布のウラ・オモテに気をつける)

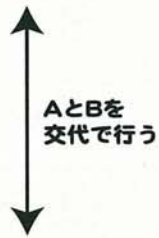
2. 布を接着する



小さい布（ウラ面）に接着剤をぬり、
トントンたたいて、はり合わせる。

※ 全体に薄くまんべんなくぬること。
接着剤が少ないと
はがれてしまうので要注意！

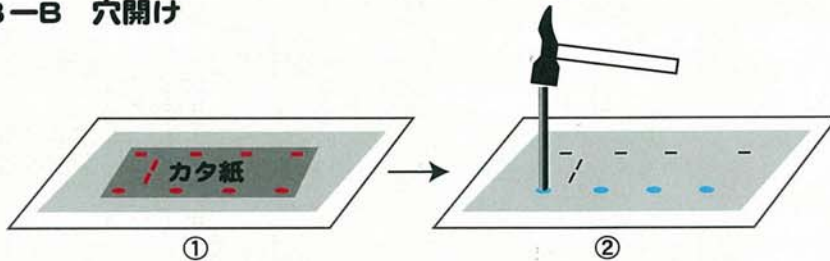
3-A 布切り & 切り込み入れ




①はり合わせた布にカタ紙をのせ、
カタ紙の形  に布を切る。

②切り終わったら、穴と切り込みの
位置にマジックで印をつけ、
切り込みを入れる。

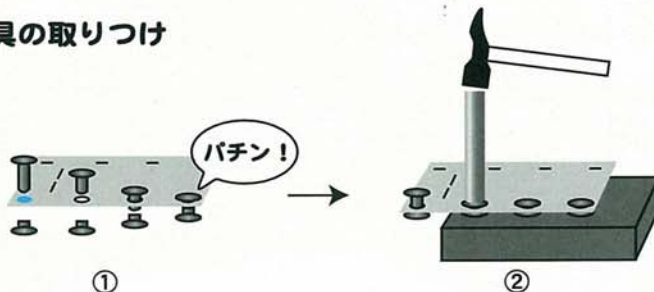
3-B 穴開け



①カタ紙をのせ、穴と切り込みの
位置にマジックで印をつける。

②カタ紙をはずし、布につけた
穴の位置  にポンチを使って
穴を開ける。

4. 金具の取り付け



①ポンチで開けた穴に金具をはめる。
(●の穴には長い金具を入れる)

②金具をはめたら
スタッフに金具をとめてもらう。

5. 完成!



布のはがれてしまうので、
良〜くかわかしてから
組み立ててね!

ストップおんだん館



ふろしきづくり

ねらい

つくったふろしきを使って、環境に配慮した生活を実践してみる。ふろしきの包み方、ふろしきの文化にふれることを通して、さまざまなものに興味・関心を持つ心を育てる。

プログラムの目標

ふろしきに自分好みの絵を描き、オリジナルのふろしきをつくる。
色を使う、絵を描くなど、アートを楽しむ。
包んだり、結んだりを体験する。
ふろしきの使い方、ふろしきの文化を知る。



ふろしきづくり

プログラムの流れ

対象年齢: 小学1年生～ / 所要時間: 約60分

約10分

導 入

- ◆ふろしきの実物紹介(今日は何をつくるのかの確認)
- ◆ふろしきの便利さやふろしきの用途などを視覚的に見せる。
例) 寸劇や小話など
小学生にはなじみのないふろしきに興味をもつきっかけづくり。
- ◆ふろしきをつくるワクワク感の演出
簡単にはできないが、お金では買えない自分だけのオリジナルふろしきが完成することなどを伝える。

寸劇 例)

- ①こそドロの格好で「ふろしきってやつは何でも入って便利なんだよなあ～」
- ②主婦の格好で「ふろしきっていろいろな使い方ができてほんとうに便利よね～」など

約40分

展 開

- ◆作業手順の簡単な説明
(進行役が作り方を一通り簡単にデモンストレーションして見せる。)
- ◆各自実際の作業
 - ①下絵を描く。(下絵はどんな紙でもOK。)
 - ②ふろしきの配布。(裏表があるので、表面を手で触って確認。)
 - ③ふろしきを広げる。
 - ④ふろしきに下絵の絵を写していく。(ふろしきの下に置くと透けて見える。)
 - ⑤よく乾かして完成。
 - ⑥ふろしきで「包む」レクチャー。
(包み方練習。お弁当やウエストポーチなど。包むものはティッシュBOX等。)

約10分

ま と め

- ◆参加者とのふりかえりの時間
参加者の何人かから実物を見せてもらったり、感想を聞いてみる。
- ◆進行役からのまとめの話
例)
 - ①ふろしきのいいところはどこか?の投げかけ。
(レジ袋などのように限られた回数しか使わないものと違って洗えば何度も使えること、用途も工夫次第でいろいろな方法で使えることなど。)
 - ②日本では昔から使われていること。(古くは平安時代や室町時代)
 - ③包み方などたくさんチャレンジしてみて実際に使ってみることを促す。 など

ふろしきづくり

実施ポイント

- 6名ほどのグループをつくり、可能であれば各グループに1名のスタッフがつくと進行がスムーズ。
- ふろしきに裏表があるので手触りなどで確認する。
- ポスカ等の油性マジックは描く前にしっかりと振っておく。
- マジックで描く場合はふろしきをしっかりとしわにならないよう伸ばして描く。
- マジックを使う場合、ペン先を布に長く置くとにじむので手早く動かす。
- ふろしきは様々な使い方ができるので可能であればいろいろと包み方や結び方も学べる時間を設定するとよい。

準備するもの

◆30名分

- ・ふろしき・・・30枚(50cm角程度)
- ・ポスカ・・・適量(5～6名で8色1セット)
- ・新聞紙(作業台養生用)・・・適宜
- ・ごみ袋・・・適宜
- ・雑巾・・・適宜(手やテーブルを拭く用)

※ふろしきは手芸屋さん等にて購入。
大きさや個数により価格が変動します。価格は
@¥200～500程度 要相談。

その他、留意点

- 包むものはティッシュBOXの他にボールやビンなど特有の包み方ができるアイテムがあると面白い。
- マーカーは油性マジック以外の布用絵の具などでも可。
- 下絵は基本的にオリジナル性が高く出るように好きなものを自由に描いてもらうが、サンプルになるモチーフをいくつか用意することも可。

※事前準備作業

備品準備。

参考文献・参考HPなど

- ・「ふろしき大研究」(監修 宮井株式会社), PHP研究所
- ※ 導入時の投げかけ内容やまとめで説明する内容に応じて下調べを行う。
例.「ふろしき 包み方」、「ふろしき 歴史」でHP検索



地球儀づくり

このプログラムは参考プログラムです。
実際のプログラムは
全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA) ストップおんだん館
にて体験できます。

ねらい

我々が住む地球に思いをはせる。地球誕生の歴史や人類誕生の不思議などに興味を持つ。また様々な生き物が住むことができる地球や同じ地球に住む生き物への興味・関心を育てる。

プログラムの目標

地球誕生の長い歴史とその中で人類が誕生したことを想像する。
地球儀の作り方、作られている方法などを知る。
はさみの使い方、のりの伸ばし方など工作の基本的な部分をしっかりとやりとげる。
完成した地球儀から大陸と海の割合や日本の位置などを確認する。



地球儀づくり

プログラムの流れ

対象年齢: 小学1年生～ / 所要時間: 約60分

約10分

導入

◆地球儀の実物紹介(今日は何をつくるのかの確認)

◆地球にはまだまだ秘密が隠されていることを知る。

例)クイズ「地球のヒミツ」

地球の歴史をかいつまんで説明し、地球そのものへの興味・関心を引き出す。

◆地球儀をつくるワクワク感の演出

簡単にはできないが、お金では買えない自分だけのオリジナル地球儀が完成することなどを伝える。

クイズ例)

①地球は何歳? - 46億歳

②地球が誕生してからこれまでを1年と置き換えると、人類誕生は何月何日? - 12月31日。

③地球の水は海水/淡水どちらが多い? - (水の総量約14億Km³)内97%が海水、3%が淡水。

約40分

展開

◆地球儀の説明と作業手順の簡単な説明

(実際の作り方は各班に分かれたスタッフが行う。)

今回の地球儀が「ラ・メール」という海の深さがわかるものであることの説明。

◆各自実際の作業

①18番～16番までの地図パーツを3枚ずつ大まかに切り、裏に名前を書いておく。(球に貼り合わせるパーツは18枚から成る。)

②18番～16番を線通りにきれいに切っていく。

③切れたパーツを18番から順にのりを付け、時計回りで球に貼り付けていく。

④①～③を時間の許す限り、繰り返していく。

※貼るときのコツとしてパーツに薄くのりを均一に付けること、赤道と球の線を合わせながら両手で端を持ちながら引っ張るように伸ばして貼るとよい。

約10分

まとめ

◆参加者とのふりかえりの時間

参加者の何人かから実物を見せてもらったり、感想を聞いてみる。

◆進行役からのまとめの話

例)

①地球が何歳であったかの確認や導入で伝えたことの確認。

②同じ地球にたくさんの生き物が暮らしていることへ思いをはせる投げかけ。

③地球のヒミツを他にも探せば面白いことなどへの投げかけ など

地球儀づくり



<http://www.jccca.org/ondankan/>

ストップおんだん館では「地球儀づくり」をプログラムとして定期的に行っております。参加・体験されたい方はストップおんだん館までお問い合わせください。
※地球儀づくりで使用するキット等は現在のところ、一般販売はしていません。ご了承ください。



学校のエコモノをさがせ！

ねらい

身の回りの環境に配慮した取り組みや商品に興味・関心を持つようになる。またそのような環境に配慮した取り組みを実践できるようになる。環境に配慮した商品を選べるようになる。

プログラムの目標

校内から環境に配慮した取り組みや物品を見つけ出す。
それら取り組みや物品のどのような部分が環境に配慮されているのか考える。またその視点を持つ。
チームで行動することで、合意形成やグループワークを体験する。またその力を養う。



学校のエコモノをさがせ！

プログラムの流れ

対象年齢：小学1年生～ ／ 所要時間：約90分

約20分

導 入

★ストーリー設定を行う

- 「エコエコ認定団」(※架空のもの)という組織がこの世にあることを説明。
- エコエコ認定団からのヒミツの試験に合格すると、「エコ認定士」のバッジがもらえ、今後認定士として活動することが許されることの説明。
※ストーリー仕立てにして興味をわかせる工夫をおこなう。
- これからエコモノ探しの校内探検が始まるワクワク感の演出

ルール

- ①個人のみではなくチームで力を合わせる。
- ②エコ認定士になったあかつきにはエコなものを見つけて広めていくこと。
- ③エコモノ3か条 1. ゴミをふやさない 2. 電気をあまり使わない 3. エコマークがついている以上3つを心に留めて校内を探検する。

●エコモノ クイズに挑戦

クイズ 例)

- ①レジ袋vsマイバッグ ②手動えんぴつ削りvs電動えんぴつ削り
- ③ペン対決(同じペンでもエコマークが付いているものと付いていないものを見極める)
- ④校内からエコモノを探す(今回のプログラムの活動につなげる)

約40分

展 開

●エコモノ探検手順の簡単な説明。

(進行役が作り方を一通り簡単に説明)

●グループワーク(5,6名が1グループ)

- ①役割分担(インスタントカメラ・記録・地図・探す)
- ②校内探検(ワークシートに沿って10点ほどを見つけ出す。)
- ③ベスト オブ エコモノ(これが一番だと思うエコモノ)をグループで1つ選ぶ。
- ④大型校内地図にエコモノ発見ポイントをシールで貼ってマーキング。

約20分

ま と め

●各グループでベスト オブ エコモノの発表。

グループ毎に発表。校内地図と照らし合わせながら行う。進行役やグループリーダーは見つけたものについてフォローの説明を付け加えながら進行する。

●進行役からのまとめの話 例)

- ①みんなの活躍でエコモノがたくさん見つかったこと。
- ②みんながエコ認定士として認められたこと。
- ③エコ認定士はもっとエコモノを見つけて、広めることが使命であること。
- ④みんなでエコモノを活用すれば地球はもっと元気になること。 など

学校のエコモノをさがせ！

実施ポイント

- 6名ほどのグループをつくり、できる限り、各グループに1名のスタッフがグループリーダーとしてフォローしていくとエコモノを探す目が養われやすい。
- ワークショップ形式で行うため、児童の参加意欲が大きなポイントになる。できるだけ導入時の投げかけや「探検」などのキーワードで引き付ける。
- 工作のような作り方指導とはちがい、グループのリーダーはグループが楽しくエコモノを探し出すこと、そののどこがエコモノなのかを発見することの支援をする。
- エコモノといってもわかりにくいのでイメージできるようにエコモノ3か条の例を伝えたり、導入時のクイズなどでウォーミングアップする。
- インスタントカメラの使い方をあらかじめスタッフは知っておく。
- 誰もが使いたいインスタントカメラはグループの全員で交替しながら写す。また記録は責任もって年長者が行うなど、しっかりとした役割分担が参加するモチベーションのアップにつながる。
- まとめではグループ一押しのエコモノを選び、グループ毎の発表形式で進めるとワークショップのまとめとして引き締まる。

準備するもの

- ◆30名分(5名×6グループ)
 - ・インスタントカメラ…グループに1台、フィルム10枚
 - ・クイズ備品…レジ袋、えんぴつ削り、マーカーなど
 - ・校内地図…約60cm大(まとめ用)
 - ・校内地図…A4サイズ(各グループ用)
 - ・丸シール…6色×10枚
 - ・クリップボード…6枚(シート記入用)
 - ・ワークシート…10枚×6グループ分
 - ・記入用ペン…6本(シート記入用)
 - ・両面テープ…適量(写真貼付用)
- ※校内探検箇所は学校関係者と協議の上で可能な場所を地図におとす。地図は手書きでも可。

その他、留意点

- エコモノ探しはこれまでの工作に関連させ、集大成として最後に実施すると効果的。
- 校内で許可された場所のみで実施する。
- 普段はあまり入ることができない部屋に入れるワクワク感を考慮して入出許可をとるとよい。
- 安全管理上、あくまでも校内の設定ではあるが発展系として郊外のエコモノ探しへステップアップが可能。
- カメラがない場合はスケッチや言葉でも可。

※事前準備作業

備品準備。校内下見。(エコモノの所在、安全箇所等)

参考文献・参考HPなど

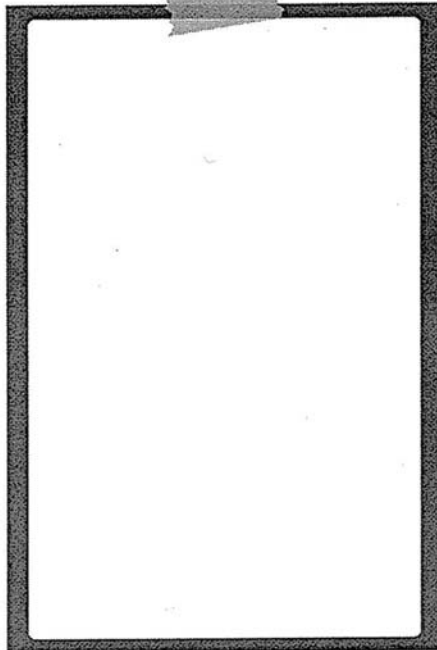
※導入時の投げかけ内容やまとめで説明する内容に応じて下調べを行う。

学校のエコモノをさがせ！

エコモノファイル

♣ エコモノ^{さん}3^{かじょう}ヶ条

- ひとつ. ゴミをふやさない
- ひとつ. 電気をあまりつかわない
- ひとつ. エコマークがついている



♣ みつけたもの

♣ 場所

♣ エコなりゆう

グループのなまえ

年 月 日()

ワークシート例

必要な部数を準備して使用する。太枠内に写真を貼り付ける。